

二〇二六番

白雲くらくもの 五百重いほへに隠かくり 遠とほくとも 夕去よひさらず見みむ
妹いもがあたりは

二〇二七番

我あがためと 織たなほ女たつめの そのやどに 織おる白しろたへ
は 織おりてけむかも

二〇二八番

君きみに逢あはず 久ひさしき時ときゆ 織おる服はたの 白しろたへ衣ころも
垢あかつ付くまでに